

成田市入札等監視委員会議事概要（平成28年度第2回定例会議）

【日 時】 平成29年1月20日（金） 午前10時～12時

【場 所】 成田市役所6階中会議室

【出席委員】 菊地委員長、枝広委員、福原委員

1. 開 会

2. 議 事

(1) 入札及び契約手続の運用状況等について

平成28年4月1日から平成28年9月30日までの入札及び契約手続の運用状況等について、事務局から報告を行った。

委 員

旧支店長名で行った入札により指名停止となった件について、入札時点で適格者の確認を行わなかったのか。

事務局

入札ごとに確認を行っているわけではなく、入札参加資格者名簿に変更事由が生じた場合には、随時変更を行うよう求めている。しかしながら、このような指名停止は発注者、受注者共に不利益なものであるので、引き続き手続きの必要性について周知を図っていきたい。

(2) 選定事例の審議について

平成28年4月1日から平成28年9月30日までの間に締結した契約の中から、3名の委員が事前に抽出した10件の選定事例について、次のとおり審議を行った。

事例1 旧豊住中学校校舎棟改修工事（建築工事）

〔制限付一般競争入札〕

〔事務局及び事業担当課説明〕

委 員

この学校はロケ地として使用された実績があるようだが、改修工事はロケ地として使えるような面影を残したものなのか。

事業担当課

外観は学校としての面影が残っているが、内面は間取りの変更を施していることから面影は薄れている。

委員

改修工事や大規模改造工事といった用語を使い分ける基準はあるのか。

事業担当課

小中学校では文部科学省の補助事業の区分が「大規模改造工事」となっているものについて、その名称を使用している。今回はその区分に当てはまらず、明確な基準はないが、入札参加者や市民にとってわかりやすい工事名となるよう心がけている。

委員

この種の工事において、最低制限価格を予定価格の90%に設定している理由は何か。

事務局

最低制限価格の算出式は、国や千葉県に準拠した制度を導入しており、直接工事費、共通仮設費、現場管理費、一般管理費にそれぞれ特定の掛率を乗じて得た額の合計とし、上限を予定価格の90%としている。建築一式工事では算出した結果が上限に達することが多いことから、最低制限価格が予定価格の90%となっていることが多い。

委員

最低制限価格は入札参加者に公表しているのか。

事務局

最低制限価格は事前公表を行っている。

委員

企画や事業の内容は設計事務所などを介して決定されたのか。

事業担当課

閉校となつてからの跡地利用については、地域で豊住中学校跡地利用検討委員会を立ち上げていただき、地域の要望等を取り入れながら決定したものである。

委員

入札保証金はどのような根拠で免除しているのか。

事務局

入札保証保険への加入など、財務規則の規定に基づき入札保証金の免除を行っている。

[以上で事例1の審議を終了]

事例2 成田市立遠山中学校既存棟空気調和設備機能回復第2期工事（機械設備工事）

[制限付一般競争入札]

〔事務局及び事業担当課説明〕

委 員

昨年、2階部分を施工したようだが、その時と落札業者は同じ業者か。

事業担当課

同じ業者である。

委 員

その際も入札を行ったのか。

事業担当課

制限付一般競争入札で行った。

委 員

昨年度、事業担当課で発注を行った管工事を見ると、落札率が高い傾向にあるように見える。今回の入札が1者入札であることも含めて、何か理由が考えられるのか。

事業担当課

本工事を含め、学校は夏休み期間中に施工を行わなければならない、施工に関する制約が多いことから入札参加者数が少なかったものと考えている。

委 員

入札に参加可能業者数はどれくらいか。

事務局

30者である。

委 員

本件だけの問題ではないが、管工事の落札率が高い傾向にあるように思える。落札率が高いことが、そのまま談合があったという裏付けになる訳ではないが、本件は入札参加業者が1者であり、また、昨年度の落札業者と同一であったことから考えると、競争性を高めるための方策を検討する必要があるのではないかと思う。

〔以上で事例2の審議を終了〕

事例3 八富成田斎場火葬炉修繕

〔随意契約（見積競争）〕

〔事務局及び事業担当課説明〕

委 員

八富成田斎場管理運営連絡協議会において、維持管理等の費用負担に取決めがあるのか。

事業担当課

新年度予算案の中で定期修繕の審議を行い、計画的な修繕についても事前に協議を行って

いる。いったん、成田市が全て負担し、後ほど2市に負担してもらっている。

委員

発注を行う際の設計金額についても2市から承認を受けているのか。

事業担当課

予算の段階で承認を受けているので、個別の設計金額については成田市に一任されている。

委員

今後、老朽化した火葬炉の大規模修繕を計画しているようだが、制限付一般競争入札の実施などは考えているのか。

事務局

火葬炉修繕は特殊性、専門性が高く、入札を実施するための設計書作成が困難なことから現在は見積競争を実施している。今後、制限付一般競争入札の実施の可否について研究していきたい。

委員

プロポーザル方式など提案型の入札方式の検討は行わないのか。

事務局

それらも含めて、研究していきたい。

委員

一昨年の火葬炉修繕では今回と同一業者が落札をしており、昨年は別の業者が落札している。同じような業者が落札していることは業務に継続性があるからなのか。また、落札金額の違いはどこからくるのか。

事業担当課

火葬炉内の耐火材については毎年すべて張替えを行い、耐火台車については隔年で修繕を行っている。その他、保守点検で判明した箇所の修繕を随時行っていることから、年度ごとの落札金額に違いが生じている。

委員

新潟の業者が落札をしているが、地元業者では対応できないのか。

事業担当課

火葬場の機能を停止させないでこのような特殊な修繕を行うのは、製造メーカーや多数の実績を持つ業者であることが望ましいため、そのような業者を含めて見積競争を行っている。

委員

最低制限価格を設定していないようだが、どのような理由か。

事務局

見積競争の場合、最低制限価格を設定していない。専門業者の中で競争が働いた結果、こ

のような落札率になったものと考えている。

〔以上で事例3の審議を終了〕

事例4 成田市保健福祉館劣化診断等調査業務委託

〔制限付一般競争入札〕

〔事務局及び事業担当課説明〕

委員

多くの業者が入札に参加しており、その大部分が最低制限価格での入札を行い、結果として18者による抽選となっている。劣化診断という業務が抽選で決定されていいものなのか考えを聞きたい。

事務局

技術者の資格や業務の実績を入札参加条件として設定しているが、実績の内容までは評価を行っていない。

委員

落札業者を決定するうえで、果たして金額だけで決めてしまってよいのか。他の落札者決定方法について考えはあるか。

事務局

事例3の件と同様に研究していきたい。

委員

実際の業務内容や調査結果はどうだったのか。

事業担当課

通常の経年劣化を超える箇所はなく、緊急を要する修繕は必要ないとの結果であった。数年後には、耐用年数に応じて空調設備や換気設備の更新が必要になってくることから、計画的な修繕を行っていきたい。

〔以上で事例4の審議を終了〕

事例5 成田市リサイクルプラザストックヤード建設工事に伴う配合CBR試験委託

及び 事例5（関連）成田市リサイクルプラザストックヤード建設工事に伴うCBR調査委託

〔随意契約（見積競争）〕

〔事務局及び事業担当課説明〕

委員

先に行った調査の結果によっては、試験委託を行う必要ないという理解でよいか。また、

これらの業務をセットで競争を行うという考えはなかったのか。

事業担当課

C B R 調査の結果によっては配合 C B R 試験が必要なくなることから、C B R 調査の結果を見て、配合 C B R 試験の発注を行うこととした。

〔以上で事例 5 の審議を終了〕

事例 6 成田市公用バス運行委託

〔随意契約（見積競争）〕

〔事務局及び事業担当課説明〕

委員

新運賃制度に変わった理由は何か。

事業担当課

これまでは走行距離で金額を算定していたが、重大な交通事故が起きてしまったことを契機に国土交通省において運賃制度の見直しが行われ、運行時間も算定に入るようになった。

委員

予定価格設定時の単価はどのように決めているのか。

事業担当課

予算要求時に財政課が設定する単価表を基に決定している。

委員

使用するバスは落札業者がその都度購入するのか。

事業担当課

保有しているバスを使用することを想定している。

〔以上で事例 6 の審議を終了〕

事例 7 成田市空家等対策計画策定業務委託

〔制限付一般競争入札〕

〔事務局及び事業担当課説明〕

委員

成田市の把握している空家戸数と国が発表している空家戸数に大きな開きがあるが、どのような理由か。

事業担当課

国が発表している戸数は住宅土地統計調査によるものだと思われるが、市で把握している数字は各自治会で実際に調べてもらった数字であることから、より実態に近いものだと考え

ている。

委員

落札者はある程度想定できていたのか。

事業担当課

本業務には、特定の事業者が持つ空家に関するデータが必要となるが、他の業者が落札者となった場合でも、そのデータを市が提供を行う予定であったので、どの業者が落札しても問題ないと考えていた。

[以上で事例7の審議を終了]

事例8 スポーツツーリズム推進戦略構築業務委託

[随意契約（プロポーザル）]

[事務局及び事業担当課説明]

委員

一次評価と二次評価の二段階選考を行っているようだが、一次評価の段階から対象は3者であったのか。

事業担当課

公募型プロポーザルに応募のあった3者により選考を行ったものである。

委員

選考委員会はどのような人物が何人置かれ、どのような選考が行われたのか。

事業担当課

選考委員は企画政策部長、企画政策課長、企画政策課課長補佐、生涯スポーツ課長及び観光プロモーション課長の5名で構成される。選考方法についてはプレゼンテーションの内容により採点を行った。

委員

選考委員に市民の代表者を加えることは考えなかったのか。

事業担当課

選考委員に市民の代表者を加えることはしなかったが、ワークショップやアンケートを通じて、市民の声を反映させていきたいと考えている。

委員

3者の評価の違いは何か。金額はみな同じくらいであったのか。

事業担当課

価格は1者が500万円、2者が496万8千円であった。評価項目で差がついた部分は、戦略構築の手法や独自提案の有無である。

委員

受注者は他部署の計画策定業務を制限付一般競争入札で受注しているようだが、プロポーザル方式を採用する基準はあるのか。

事務局

プロポーザルを採用するか否かについては、発注担当課にて方針を決めた後に、成田市工事等指名業者選定審査会の審議を経て決定される。

委員

成田市が目指すスポーツツーリズムの概念は何か。

事業担当課

大会や事前キャンプの誘致などを通じてスポーツと観光の振興を図り、地域経済の喚起や市民のスポーツに対する意識向上などを旨とする。

委員

本業務の方向性はどのようなものか。

事業担当課

本業務は、東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップに向けて、成田市として具体的にどのような対応をしていくかということが主眼となるが、これらのイベント後も引き続きスポーツツーリズムを推進できるような戦略の構築も行うこととなる。

委員

予定価格の設定はどのように行ったのか。

事業担当課

予算編成の際、アンケート等を伴うコンサル業務は500万円が目安とされていることから、その金額を採用した。

[以上で事例8の審議を終了]

事例9 成田国際文化会館エアコン借上

[随意契約（見積競争）]

[事務局及び事業担当課説明]

委員

空調設備の工事が延長したことにより必要になったエアコン借上ということだが、工事施工業者と本件の受注者は別の者なのか。

事業担当課

工事施工業者とは別の者である。

委員

工事は遅延したのか。それとも、やむを得ない理由で工期延長となったものなのか。

事業担当課

空調設備にアスベストが使われていることが判明し、工法の変更が生じたことから工事が遅れることとなった。

委員

参加した5者のうち、2者が辞退しているが、辞退理由は何か。

事務局

辞退理由としては、期限までにエアコンを用意できないというものであった。

委員

予定価格に対して落札金額が低いようだが、その理由は何か。また、適正な履行が行われたのか確認したい。

事業担当課

大手リース会社の見積りを参考に予定価格を設定したが、実際に複数者で見積り競争を行った結果、そのような落札率となった。また、設置されたエアコンに問題はなく、適正な契約の履行がなされたものである。

〔以上で事例9の審議を終了〕

事例10 消防吏員被服（救急服他）購入

〔指名競争入札〕

〔事務局及び事業担当課説明〕

委員

7者のうち、2者の入札が無効となっているが、その理由は何か。

事務局

2者とも、入札書の件名誤りであった。

委員

事業担当課では、他にも物品購入の際、指名競争入札を行っているようだが、指名業者の範囲はその都度決定をしているのか。

事務局

本件は、「繊維・寝具」、「消防保安用品」、「百貨店」に登録のある279者の中で、同様の納品実績がある業者のうち、市内業者を優先して指名している。

委員

279者のうち、市内業者の数はいくつか。

事務局

2 2 者である。

委員

市内業者の中からその都度指名業者を決めているのか。

事務局

品目に応じ、指名業者を決めるが、場合によっては準市内業者や県内業者へも指名を広げている。

委員

事業担当課の発注した被服関係の契約を調べてみたところ、非常に落札率が高かった。さらに、落札業者を見ると、無効の2者を除いた5者に別の1者を加えた6者でそれぞれ2、3件ずつ落札していた。落札金額は200万円から600万円とまちまちだが、きちんと競争が働いているか疑いを持ってしまう状況である。落札率が高い理由について、何か考えはあるか。

事業担当課

消防服という特殊性の高いものであるため、値幅が狭いのではないかと考えている。また、予算編成時には複数者の見積りのうち安価なものを採用していることから、落札率が高くなっているものと考えている。

委員

より多くの業者に参加してもらえるような入札方式への変更を検討した方がよいのではないか。

事務局

昨年8月から物品においても電子入札を導入し、制限付一般競争入札への移行を進めているため、より競争性が高まるものと考えている。

[以上で事例10の審議を終了]

事例10までの審議を終え、全体を通じて何か意見・質問はあるか。

委員

品質の確保といった観点から金額だけではない競争の手法について研究していただきたい。また、最低制限価格を事前公表していると、抽選により落札者の決定が行われることが多くなる。本来ならもっと様々な点で競争が働くこともあると思われることから、その設定方法についても研究をしていただきたい。

委員長

適正な入札執行が行われていることが確認できたが、競争を高める必要があると思われる部分もあったので、今後も適切な入札の執行に努めていただきたい。

[以上で議題2の審議を終了]

(3) その他

傍聴者

4名

次回定例会の日時の決定

次回の定例会議開催日時を次のとおり確認し決定した。

開催日 平成29年7月7日(金) 10:00~12:00

開催場所 成田市役所6階 中会議室

以上